

百度も母を呼びたる茂かな

田中裕明（『先生から手紙』）

晩春の芽吹きは小さいながら強力なエネルギーを秘めていて、日照時間が長くなるとあっという間に成長する。青葉、若葉と詠めるのはGWの頃だろうか。六月に入るともうすっかりたくましくなっている。

人はいくたびも母を呼ぶ。赤ん坊の頃から小学校時代、そしていい大人になっても。

人はいくたび母を呼ぶ。

この句は、「百」という数詞がいい。〈いくたびも母を呼びたる茂かな〉とも詠めただろうが、「百」という具体性が切実さを帯びている。

『先生から手紙』には、〈水遊びする子に先生から手紙〉の次に収められているので、おそらくは吾子俳句だろう。「百」という数詞は、母の若さと子の幼さを含んでいるようだ。